



ひとりだち

可児市立西可児中学校



R7 校報第8号

令和7年10月31日



〇〇の秋

3年生学年主任 渡邊 卓実

秋の深まりを感じる季節となりました。秋になると、しばしテレビ番組やラジオなどでは、「食欲の秋」「読書の秋」「スポーツの秋」などの言葉を耳にし、その内容に即した番組が放映されていますね。みなさんはこの秋、どんな秋にしようと考えていますか？ 過ごしやすい気候、秋の夜長、たくさんの美味しい食材…ぜひとも、素敵な〇〇の秋をお過ごしください。

さて、今回は「実りの秋」をテーマとして4月から10月（前期間）で、各学年がどのような「実り（成長）」をしたのか、学年主任の先生達にインタビューをしました。以下がその内容です。

★特別支援学級

30人近い大所帯のA組ですが、今年は学年関係なく仲良くレクをしたり、縦割り掃除をしたり、作業学習をしたりしながら、例年以上に仲を深めることができています。特に、A組全体で行ったレクでは、3年生が中心となって、声をかけあいながら全員が楽しめるレクを企画・実践しています。一人ひとりを大切にできる私たちだからこそ、これからある二つのチャレンジ研修では、これまでにつけた力を発揮して、研修を成功させたいですね。

★1年生

自分たちの生活を自分自身で作る意識の高まりを感じました。そして、その意識が高まりの裏にあるのは、みなさん一人ひとりの視野の広がりだと思います。前期の振り返りではクラスの良い姿をみんなで考え、良い姿を出し合いました。出来上がった表を見てみると、仲間のことをよく見ているなど感心しました。集団としての成長は、私たち1年生一人ひとりの成長につながっています。そして、一人ひとりの成長が学年の成長につながっています。そんなことを実感できる前期でした。

★2年生

学校生活で高めた力を校外学習で実践したり、地域と関わったりすることを通して、名古屋研修での時間行動、職業講話での聴く力、職業体験での社会性などを学び、磨くことができました。日常生活はもちろん、協友祭、名古屋研修、DX 学年レク（1・3年生が校外研修中の時間を利用して行った級長主催の大規模レク）などの行事や各学活等において、去年の経験を生かして自分たちで考えて進めていく自治力を伸ばす姿が多く、後期の成長がますます楽しみになりました。

★3年生

3年生としての「自覚」と「誇り」が、芽生え、育まれてきた前期でした。まずは、協友祭。自分たちが盛り上がることはもちろん、「他学年」をどう巻き込むか。そのために、どのように関わりを持つかを大切にして、アドバイスをしたり、応援やねぎらいの言葉をかけたりする取組期間や本番。東京研修に向けて、「相手意識」と「時間行動」をリーダー中心に行い、確かな力をつけて、研修で発揮。戻ってきても、付け力を継続させ、さらに高めるためのことを考える。そんな前期間を通して、まずは「自覚」を持ち、日々の生活の中で当たり前の質を高めそれを、「誇り」に変え始めましたね。

学年という大樹にそれぞれの「実り」を確実につけた前期でした。この大樹につけた果実をさらに成長させたり、ほかの実をつけたりできるように、毎日の生活の中で「挑戦」「関わり」「貢献」などの養分を与えて、立派な果実の実った大樹になっていくことを願っています。

